

# ハーモニー

Harmony

第79号 2019年6月10日発行  
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座

後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

## 目次

2019年度学会事業について……………1	「特別企画：会員交流」①……………6
2018年度学会事業報告……………2	学会誌第23巻第2号の投稿募集、 編集委員会事務局移転のお知らせ……………7
第27回学術集会（神奈川県横浜市）のお誘い……………4	理事会報告要旨……………7
2020年度「研究助成金研究」の申請募集、 「投稿奨励研究」のご案内……………5	事務局より……………8
トピックス……………5	編集後記……………8

### 2019年度学会事業について

#### －教育改革・教員改革を見据えて－

理事長 後藤ひとみ（愛知教育大学）

第Ⅷ期（2018年度～2020年度）の役員体制は2年目を迎えます。今期の学会運営については、昨年の就任挨拶で、温故知新をスローガンとして、「昔のことをよく学び、そこから新しい知識や道理を得る」、「過去の事柄を研究して、現在の事態に対処する」を肝に銘じて、次世代を見据えた新しい学会づくりに努力すると述べてきました。具体的な取組みとして、第一に「会則・実施細則などの規程改正」、第二に「『養護教諭教育』の理念にそった学術的な活動の推進」、第三に「養護教諭の実践と養成と研修をつなぐ養護教諭教育プログラムにそった学会活動の推進」、第四に「『養護教諭の倫理綱領』と養護実践基準の内容の周知」を掲げました。

これらのうちで「会則・実施細則」の改正案は2018年度総会においてご承認いただき、他についても関係の委員会が中心となって進めています。また、2018年度事業の重点の一つであった「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第三版〉」は今年3月末に発行しました。

このような進捗状況をふまえて、昨年12月の総会（9月に予定していたが台風のために開催日を変更）で承認された2019年度事業計画は、①第27回学術集会（神奈川県横浜市）の開催、②学術集会におけるプレコン

グレスの開催、③研究助成金研究の選定と助成、④投稿奨励研究の選定と投稿の奨励、⑤学会誌第23巻第1号と第2号の発刊、⑥機関誌ハーモニー第79号から第81号の発行、⑦「養護教諭の倫理綱領」第13条の養護実践基準の検討、⑧本会の法人化にむけた検討、⑨日本養護教諭関係団体連絡会の取り組みの推進と養護教諭の資質能力に関する諸課題の改善、⑩広報活動及び他機関との情報交換の10項目です。

なかでも、第25回（2017年）と第26回（2018年）の学術集会で中間報告を行った「養護実践基準」については、具体的な提案を行い、プレコンgressや全体報告の場で協議する予定です。また、第Ⅶ期の総括で確認した、日本養護教諭関係団体連絡会による養成カリキュラム調査の推進、養護教諭の倫理綱領の周知、養護教諭教育の学術的な枠組みの検討、教員養成における学校保健の必修化、チーム学校実現への参加などにも取り組んでまいります。

教育再生実行会議の提言を受けた中央教育審議会等での検討により教育改革や教員改革が進んでいます。教職課程コアカリキュラムの検討については、すでに各教科内容の検討が複数の大学に依頼されています。これからも最新の情報提供に努め、本学会の目的である「養護教諭教育（養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動）」に関する研究とその発展」に邁進致します。今年度もご支援の程をお願い申し上げます。

## 2018年度学会事業報告

### 【学会活動委員会報告】

学会活動担当常任理事 小林央美（弘前大学）

#### 1. 養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第三版〉の発行

2017年度から検討していた『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第二版〉』の改訂作業を行い、〈第三版〉を2019年3月31日に発行しました。会員の皆様のお手元には、既に届いているかと思えます。

改訂作業は、ワーキンググループ（WG）を立ち上げて進めました。メンバーは第一版及び第二版の改訂WGメンバー、現職養護教諭、学会誌編集担当理事及び学会活動担当理事の計14名です。今回の改訂では、2012年の〈第二版〉発行後の「教育を取り巻く状況や本学会の動向」を踏まえました。具体的には、一つ目として3つの中央教育審議会答申が出され、教員の資質能力の向上、チームとしての学校づくり、地域と学校の連携・協働という一体的な改革が進んだことです。二つ目として学習指導要領の改訂がなされたことです。そして三つ目として、本学会の「養護教諭の倫理綱領」が2015年度総会で承認されたことです。

結果、新語として「養護教諭の倫理綱領」「保健教育」「チーム学校」の3語を加えました。他の32語につきましても前述の改訂の背景のほか、基本的には〈第一版〉〈第二版〉の作成趣旨を踏まえて修正を行いました。

会員の皆様には、ハーモニー送付時に原案を同封してご意見をうかがい、学術集会での報告に対するご意見をいただき、その内容を改訂作業に活かすことができました。貴重なご意見をありがとうございました。2007年の〈第一版〉の発行以来、養護教諭の専門領域に関する用語について共通の解釈の提案がなされ、研究・実践の発展に寄与してきたのではないかと思います。しかしながら、今後も、児童生徒等の教育課題の変化や教育の動向を踏まえ、時代に即応した用語の解説の見直しを継続する必要があります。会員の皆様のご意見をいただきながら進めてまいります。

#### 2. プレコンgressの企画と実施

2018年9月29日（土）の第26回学術集会においてプレコンgressを開催しました。テーマは、「改めて、養護教諭の倫理綱領を学びあう」でした。参加者は27名（養護教諭11名・養成関係者12名・学生4名）で、「いじめと虐待に関する養護教諭の実践事例」を取り上げ、具体的な「倫理綱領」の活用の場面や捉え方に

ついて討議しました。

結果、「養護教諭の倫理綱領について理解が深まった。養護教諭の実践に活用されていることが分かった。養護教諭の実践を支えるものだったと思った。」などの感想が寄せられました。今後も、「養護教諭の倫理綱領」について、会員の皆様により一層理解され、養護教諭の実践に活かされていくことを願っています。

### 【学術委員会報告】

学術担当常任理事 鈴木裕子（国士舘大学）

2018年度から学術担当理事による委員会が組織化され、活動を行ってきました。メンバーは河田史宝理事、今富久美子理事と私の3名です。会則実施細則により、学術に関わる研究の推進、研究助成金研究及び投稿奨励研究への支援、学術集会実行委員会への支援などを担当しています。

2018年度の活動として注力したのは、学術集会における「一般演題の領域区分」の見直しです。この区分は2012年に本会設立20周年を迎えたことを契機に「養護教諭の専門性を支える柱（あるいは学問構造）」や養護教諭教育の理念を学会として示すことにより、養護実践の根拠となる学問体系の確立をめざして設定したものです。以来、7回の学術集会において一般演題の区分に活用してきました。今後はその課題を整理し、より適切な領域区分を示し定着させていくことで、養護教諭教育の学問領域の確立につないでいきたいと考えています。

そのため2018年3月と6月に、近年の学術集会で一般演題発表を行った会員を対象に、送付物に同封する形で演題区分に関するアンケートを実施するとともに、ハーモニーでご意見を募集しました。残念ながら回収率が低く十分な意見集約とは言えませんでした。これらのご意見と理事の意見を踏まえ、このたび新しい演題区分（案）を提示し第27回学術集会で試行することにしました。学術集会後さらに検討を進めますので、本紙同封の区分案をご覧ください、ご意見をいただければ幸いです。

このほか2018年度も例年同様に会員の研究支援及び研究助成金研究の選定、投稿奨励研究の推薦にかかわる作業を進めました。助成金研究は規程に基づき1件を選定することができました。しかし投稿奨励研究の推薦については第26回学術集会2日目の中止に伴い残念ながら断念することになりました。

今後も引き続き養護教諭教育や養護教諭の実践に関して学術の面から活動を進めてまいります。ご協力をお願い致します。

## 【編集委員会報告】

編集担当常任理事 松永恵（茨城キリスト教大学）

### 1. 機関紙の発行

機関紙ハーモニー第76号、第77号、第78号を発行しました。更に親しみやすい会紙をめざし、新しい企画を考えたり、レイアウトを検討したりしました。

本号からは、皆様の養護教諭教育に関する素朴な疑問や関心、心配事などをテーマにした紙上対話を企画します。このような機会から、研究活動の輪が広がっていくことを期待しています。

### 2. 学会誌の発刊

学会誌第22巻第1号と第2号を発刊しました。

第1号では「新学習指導要領が目指す子ども像の育成を担う養護教諭の教師力」と題し、保健室や教室で、養護教諭が子どもたちの思考力を高めるような教育実践と研究のあり方について特集しました。

第2号では第26回学術集会（於赤穂市 学会長：関西福祉大学 津島ひろ江氏）の内容を報告しました。台風により2日目を中止せざるを得ませんでしたので、早くから交通機関や宿泊を予約したにもかかわらず、取り止めなければならなかった会員も多かったことと思います。1日目のみの開催でしたが、養護教諭の活動を広い視点で捉え直す、印象に残る企画の数々を取めました。

投稿論文は第1号、第2号とも各3本、計6本を掲載しました。投稿後、掲載されるまでには半年～1年ほどかかっており、投稿者から「査読の指摘を読み、自身の研究や実践が否定されたような気持ちになる」とお聞きすることがあります。一度はそのような気持ちになっても、審査結果に真摯に向き合い、ご修正に励まれ、学会の宝として公表してくださいましたことに感謝申し上げます。

また、ご多用の中、快く査読にご協力くださいました会員の皆様に感謝申し上げます。査読者をお引き受けくださる方の中には上のような気持ちになった方もいらっしゃると思います。投稿したり査読したり、お互いに高め合える会員の層の厚さを誇りに思います。

編集委員会では、お互いの査読観を共有したり、表現方法を見直したりと査読の質を高める取り組みを検討する必要があると考えております。また査読事務を整理し、投稿者に負担のかからない仕組みを作っていくことも課題であると捉えています。

## 【総務報告】

総務担当常任理事 大川尚子（京都女子大学）

総務からは、以下の庶務、会計、渉外、事務局より報告させていただきます。

### <庶務>

- 1) 理事会の開催・運営の補助として、理事会の案内、議案・議事録作成を行った。
- 2) 総会関係として、委任状の作成、議案書の作成、会計監査との連絡調整、総会運営補助、総会議事録作成、会則等の一部改正の提案を行った。
- 3) ハーモニーに理事会議事録、学会誌に総会記録を掲載した。

### <会計>

- 1) 総会関係として、決算報告、補正予算案、予算案の作成を行った。
- 2) 理事会旅費の準備、会場予約等の手配を行った。
- 3) 年会費の収支管理を行った。

### <渉外>

- 1) 日本養護教諭関係団体連絡会の幹事団体として事務局の業務を行った。
- 2) 他学会・団体等の情報収集を行った。

### <事務局>

- 1) 会員管理、会費管理を行った。
- 2) ハーモニー、学会誌の発送作業を行った。
- 3) 総会委任状集約、総会資料等の準備を行った。
- 4) ホームページの管理を行った。

なお、2018年度の学術集会2日目が台風の影響で中止されたため、当日予定していた総会と研究助成金研究発表は延期して、12月24日に開催しました。また、学術集会2日目のプログラムであった特別講演を関西福祉大学にて開催した養護塾（代表：津島ひろ江氏）において実施する際に、本学会が後援しました。



**第27回学術集会(神奈川県横浜市)のお誘い**  
2019年10月12日(土)～13日(日)

学会長 鈴木裕子 (国士舘大学)

第27回学術集會を横浜で開催します。実は本学会が「全国養護教諭教育研究会」として発足し第1回研究大会を行ったのは横浜でした。1993年11月のことです。機関紙名が多数決で『ハーモニー』と決まったのもこのときでした。それから26年、再び横浜に会場が巡ってまいりました。そこでこの四半世紀の歩みをふまえつつ、急激に変化する社会・学校の未来を見据えた学術集會にすべく、メインテーマに「みらいにつなぐ養護教諭のアイデンティティ」を掲げました。

特別講演は、NHKのEテレ「サイエンスZERO」等でおなじみのサイエンス作家竹内薫さんから、AIをはじめとする最新の科学技術の動向とこれからの教育についてご教示いただきます。続くシンポジウムでは、養護教諭の実践を内外から長い間みつめてこられたお三方からの提言をふまえメインテーマに迫ります。

恒例の懇親会は桜木町駅前のワシントンホテル24階『東天紅』での立食パーティです。

ランドマークタワー25階に会場を移した2日目午前中は一般演題発表(口演・ポスター)と総会です。今回はポスター発表の数をより多く設定しています。口頃の研究成果をぜひご発表ください。午後は課題別セッションとして2題を計画しています。

詳細及び参加申込はホームページからお願いします。会場は人気観光スポットに近く周辺の混雑が予想されますので、お早日のご予約をお勧めします。今富久美子実行委員長をはじめ実行委員一同、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 第27回学術集会のご案内(第3報)

### 1. 期日及び会場

2019年10月12日(土) はまぎんホール ヴィアマール  
2019年10月13日(日)

TKPガーデンシティPREMIUM横浜ランドマークタワー  
\*アクセス\*

みなとみらい線みなとみらい駅「クイーンズスクエア連絡口」より徒歩8分またはJR・横浜市営地下鉄線桜木町駅から動く歩道利用5分

### 2. メインテーマ

「みらいにつなぐ養護教諭のアイデンティティ—新時代の学校教育にいきる実践理論の創造—」

### 3. 内容

第1日目

・10:00～ プレコンGRES(理事会主催・参加自

由・事前申込不要)

・12:00～ 学会長講演

・13:00～ 特別講演「AI時代がやってきた!—消える仕事・生き残る仕事—」竹内 薫氏(サイエンス作家)

・14:15～ シンポジウム「新時代につながる養護教諭の実践とアイデンティティを検証する」

コーディネーター: 山崎隆恵(北海道教育大学札幌校)・大津留幸子(横浜市学校保健アドバイザー)

シンポジスト: 山本敬一(東山書房「健康教室」編集長)・山川伸二(横浜市立南瀬谷中学校校長)・後藤里美(神奈川県立厚木東高等学校総括教諭(養護教諭))

・16:40～ 学会事業報告

・18:30～ 懇親会(参加希望者は事前申込必要)

第2日目

・9:30～ 一般演題発表(口演、ポスター)、助成金研究報告「特別支援学校における養護教諭の専門性に関する研究」

・11:40～ 総会

・12:45～ ランチョンセミナー(当日整理券配布)

・13:50～ 課題別セッション(当日整理券配布)

「オйкаワヒロコ先生と健康教育について語ろう」  
「悩んでいませんか?先生たちとのコミュニケーション」

### 4. 参加及び研究発表

1) 参加費: 会員6,000円(8月31日までの事前申込の会員のみ早割5,000円)、一般6,000円、学生(社会人大学院生を除く)3,000円、抄録集のみ2,500円(送料含)、懇親会(希望者のみ)5,000円

2) 参加登録: ホームページから事前申込をお願いします(会員早割は8月31日まで)。

参加費はWeb(クレジット)決済、銀行振込、コンビニ支払から選択できます。

3) 演題申込: 発表者・共同研究者は本学会会員に限ります。ホームページから申込書をダウンロードし、事務局にEメール添付で送信してください。

★締切 6月30日(日)

演題受理後、原稿の作成要領を送ります。

★抄録原稿締切 7月31日(水)

### 5. 詳細及び申込

第27回学術集会ホームページ参照

<https://www.jayte27kanagawa.com/>

### 6. 事務局

国士舘大学文学部 鈴木裕子研究室内

E-mail: [jayte27yokohama@gmail.com](mailto:jayte27yokohama@gmail.com)

◎お問い合わせやご連絡はEメールでお願いします。

## 2020年度「研究助成金研究」の申請募集

学術担当理事 今富久美子(神奈川県立上矢部高等学校)

本学会には、養護教諭教育(養護教諭の資質や力量形成及び向上に寄与する活動)に関する研究の発展を目的として、会員の特色ある研究に対して1件10万円の助成を行う「研究助成金研究」の制度があります。

助成対象は毎年2件以内で、申請された研究の中から「研究助成金研究の選定に関する内規」(2013年度総会承認)に則って選定し、理事会での審議を経て、総会で承認を受けて決定します。

助成を受けた研究は、ハーモニーに申請内容を報告し、次年度の学術集会において研究の成果を発表し、さらに助成期間終了後1年以内に本学会誌に投稿していただきます。これに関する内規は「日本養護教諭教育学会誌」第22巻第2号81ページおよび学会のHPでご確認ください。

2019年度の「研究助成金研究」は、「くびき野式事例検討法の開発及びその活用に関する研究」(研究代表者:園田学園女子大学 角田智恵美会員)です。

2020年度に助成金を希望する研究を、次のとおり募集致しますので、皆様からの積極的な応募をお待ちしています。

- 申請資格 共同研究者も含め本学会員に限ります。
- 申請方法 申請書を学会HPよりダウンロードして必要事項を記入し、下記申請先までメールに添付して送ってください。

●申請締切 2019年9月10日(火)

●申請先 〒154-8515

東京都世田谷区世田谷4-28-1

国士舘大学文学部教育学科

鈴木裕子 宛(学術担当常任理事)

E-mail: suzukiyu@kokushikan.ac.jp

## 「投稿奨励研究」のご案内

本学会では、養護教諭教育に関する研究の一層の発展を図ることを目的として、特に現職養護教諭による研究の推進をめざし投稿奨励研究の制度も設けています。

この制度は、学術集会で発表された一般演題を対象として、座長等の推薦を受けた研究の中から理事会で投稿奨励研究を選定し、その研究の発表者に日本養護教諭教育学会誌への投稿を勧めるとともに、査読費用の7,000円を免除するものです。

今年の第27回学術集会においても、座長等から推薦をしていただく予定です。養護教諭の明るい未来を願い、皆様からの積極的なご発表をお待ちしています。

## トピックス

文部科学省「学校における医療的ケアの今後の対応について」(通知)が公表されました

理事 塚原加寿子(新潟青陵大学)

本紙で2号にわたり紹介した「学校における医療的ケアの実施に関する検討会議」は、最終まとめを取りまとめ、文部科学省は標記を通知しました。最終まとめは、①医療的ケア児の「教育の場」、②学校における医療的ケアに関する基本的な考え方、③教育委員会における管理体制の在り方、④学校における実施体制の在り方⑤認定特定行為業務従事者が喀痰吸引等の特定行為を実施する上での留意事項、⑥特定行為以外の医療的ケアを実施する場合の留意事項、⑦医療的ケア児に対する生活援助行為の「医行為」該当性の判断、⑧研修機会の提供、⑨校外における医療的ケア、⑩災害時の対応について取りまとめられたものです。(下線は筆者付記、中間まとめから加わった項目)

これによると、医療的ケア児の教育に当たっては、児童生徒等の安全の確保が保障されること、一人一人の教育的ニーズに応じた指導を行うこと、学校で医療的ケアを行う場合には、教育委員会において看護師等を十分確保し、継続して安定的に勤務できる体制を整備すること、看護師等が医療的ケア児との関係性が構築されている教職員と連携しながら、組織的に医療的ケアを実施することができるようにすること、医療的ケア安全委員会を設置するなど関係者が連携し、対応を検討できる体制を構築することなどが述べられています。また、小・中学校等において医療的ケアを実施する場合には、特定行為を含め、原則として看護師等を配置又は活用しながら、主として看護師等が医療的ケアに当たり、教職員等がバックアップする体制が望ましいこと、看護師、認定特定行為業務従事者に対する研修のみならず、全ての教職員に対する研修及び保護者への啓発が必要であることなども述べられています。

さらに、学校における医療的ケアの実施に当たって教育委員会、管理職、看護師等、全ての教職員、養護教諭の役割分担例が示されています。

標記本文と最終まとめは、文部科学省ホームページで読むことができます。

特別支援教育>特別支援教育について>資料(データ、通知、答申、報告書等)>通知等

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/1414596.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1414596.htm)

なお、「特別支援学校等における医療的ケアの今後の対応について」(平成23年12月20日23文科初第1344号初等中等教育局長通知)は廃止となりました。

## 初めての学会発表

Q. 私が取り組んだ研究は学会発表できるでしょうか？  
また、初めての学会発表に向けてどのように準備したらよいかご助言いただけると幸いです。

会員 宮井亜裕子（八尾市立曙川中学校）

私は長年、中学校で養護教諭として子どもに関わってきました。定年を前に、学校現場に残せる物をと考え、大阪教育大学大学院で、「児童虐待に関する教員の意識と対応」について研究しました。

大学院の講義で、ある先生から「養護教諭は実践していても発信が少ない。専門性を認めてもらうために、学術的にきちんと論文にして学会発表していく必要がある。」と教わりました。これまで私は、実践発表をしてきましたが、正式な学会発表ではなかったもので、地道な養護実践が多くの人に認められるよう、遅ればせながら学会発表をすることにしました。

私が取り組んだ研究は、学会発表できるでしょうか。また、初めての学会発表なので、抄録原稿の作成や図の提示方法、プレゼンテーションの場合のスライド作成などについても、どのように準備したらよいか心配に思っています。今回は本ハーモニーの紙上で、3月に養護塾の会場でお話させていただいた河田史宝先生から、学会発表に向けてご助言いただく機会をいただきました。どうぞよろしく願いいたします。

## 【研究の概要】

(目的) 養護教諭の対応や意識の検討を通して、学校での虐待ケースへのよりよい対応のあり方を検討する。

(方法) 虐待対応経験のある小中学校養護教諭対象の半構造化面接調査 (n=10) を実施し、得られたデータを川喜田 (1986) のKJ法をもとに結果を抽出した。

## A. 学会発表できます。

学術担当理事 河田史宝（金沢大学）

2019年3月に関西福祉大学で開催された養護塾（後援：日本養護教諭教育学会）で、偶然、お隣の席になったのがご縁で、宮井先生が大学院に行かれていることを知りました。研究をまとめたと同じ、思わず「是

非、学会に加入して発表してください。」と伝えたことを覚えています。

さて、ご質問への回答です。まず、学会発表できます。抄録作成においては、研究として【背景】【目的】【方法】【結果】【考察】のように、【結果】と【考察】を分けてまとめられることがよいと言えます。

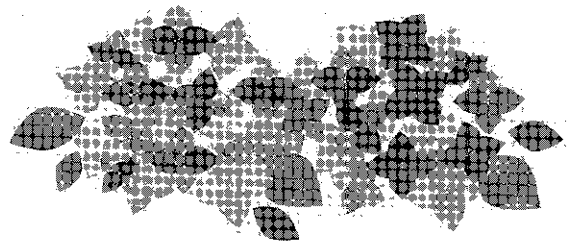
KJ法を援用された図解は、かなり大きくなることが予測されますので、図解をうまく提示することが工夫点となります。

また、パワーポイントのスライドは、あくまで補助資料です。まず発表原稿を作成して、パワーポイントのスライドを作成されることをお勧めします。そうすることで、スライド枚数も厳選されることにつながります。

この度は、河田先生からの心強いお言葉や具体的なお助言をいただき、感謝申し上げます。

学会発表に向けてひとつひとつ手順をふんでまとめていこうと思います。まずは、抄録作成を頑張ります。ありがとうございました。

宮井亜裕子



今号からの新掲載「特別企画：会員交流」では、これからも会員の皆様のニーズに応え、紙上で会員相互の交流を深めていただけるような機会を提供してまいります。皆様のご意見やご要望、希望されるテーマや質問・疑問など、学会事務局までEメールでお寄せください。よろしくお願い致します。

## 《学会事務局》

E-mail: JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp

## 学会誌第23巻第2号の投稿募集

編集委員 飯嶋美里 (常磐大学高等学校)

養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する研究を募集しています。2019年度で本学会誌は第23巻の刊行となりました。会員の皆様には、多くのご投稿とご協力をいただき、感謝申し上げます。

平成から令和へ、改元から早ひと月が経ちましたが、養護教諭としてお勤めの会員の皆様は、健康診断がひと段落した頃、あるいは真ただ中でしょうか。

ご承知のとおり、学校保健安全法で健康診断は保健管理に位置付き、健康状態を把握する役割に加え、健康課題を明らかにして学校生活に役立てる役割を持つ教育活動です。健康診断ひとつをとっても、法律として組み込まれていくまでに多くの実践や研究がなされてきました。私自身、養成段階にあった自らを振り返ると、理論的知識として漠然と理解していたことが、現場に出て数年経った今、ようやく実践と理論的知識がつながって受けとめられるようになってきました。先達の皆様の積み重ねてこられた研究によって生み出された知見の上に、現代の私たちの実践があることを実感する日々です。

また、子どもの自殺や虐待等、痛ましいニュースが連日報道されています。子どもを取り巻く環境が複雑化し、さまざまな健康課題や背景を抱える子どもが多く見られるようになりました。学校に要求されることも増加し、同時に養護教諭の役割が一層重視され、多様化するニーズへ応えることが求められています。日々変わっていく子どもを養護教諭の目で捉え、直面している課題を客観的に取り上げていくことが、多くの子どもたちの課題解決へと還元されると考えます。養護教諭としての小さな困りごとや気づきを記録すること、子どもを支援した事例の検討等、日常の実践やその振り返りから研究へとつながっていきます。実践と研究のサイクルが続いていくことが、養護教諭教育につながると考えます。

養護教諭の会員の皆様の実践を研究としてまとめた論文の投稿をお待ちしております。

投稿の締め切りは、9月末と3月末の年2回です。学会誌巻末にある投稿規定、投稿原稿執筆要領、論文投稿のしかた、投稿時のチェックリスト等をご一読のうえ、ご準備をお願い致します。皆様の投稿を心よりお待ちしております。

### 編集委員会事務局移転のお知らせ

編集委員会事務局は、2019年4月より移転しました。学会誌への論文投稿やお問い合わせは、次の連絡先をお願い致します。

《編集委員会事務局》

〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘3-1-1  
関西福祉科学大学 健康福祉学部  
齊藤ふくみ 宛  
TEL & FAX : 072-978-7819  
E-mail : f-saito@tamateyama.ac.jp

## 理事会報告要旨

総務担当常任理事 大川尚子 (京都女子大学)

### 2018年度第3回理事会議録 (概要)

1. 日 時 2018年9月28日 (金) 15:30~17:30
2. 場 所 関西福祉大学1号館116
3. 出席者 大川、加藤、河田、占賀、鈴木、塚原、平井、松永、圓岡、三木  
監事：岩崎、大野 学会長：津島  
(欠席者：後藤、今富、上村、小林、稲垣幹事)
4. 議 事

### 【確認事項】

第2回理事会議事録 (案) について

### 【審議事項】

- 1) 第26回学術集会の開催について  
台風接近に伴う対応として、1日目は予定通りの開催、2日目は中止にすること、一般演題の発表は抄録集での紙上発表とすること、延期となる総会の開催日等は後日ホームページで通知することが承認された。
- 2) 2017年度会計報告・監査報告  
監事からの適正な処理であるとの報告を受けて、原案通り承認された。
- 3) 2018年度補正予算案、2019年度予算案  
学会誌等の発送作業の費用を「発送作業補助費」と表記変更することとし、原案通り承認された。
- 4) 会則等の改正案  
原案通り承認された。
- 5) 2019年度研究助成金対象研究の選定  
申請のあった2件の採否を検討し、1件を条件付きで採択するという選定案を総会で提案することが承認された。
- 6) 2020年 (第28回) 学術集会の開催地  
過去の開催地の確認を行い、総会までに検討して報告することとした。

### 【報告事項】

- 1) 学会事務局 (本部) の設置と運営
- 2) 2018年度総会の運営
- 3) プレコングレスの運営
- 4) 「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集 <第三版>」の検討状況
- 5) 養護実践基準の検討状況と中間報告第2報の内容
- 6) 2018年度活動経過  
①日本養護教諭関係団体連絡会の取り組み  
②各理事の担当業務及び委員会活動

## 2018年度第4回理事会議録（概要）

1. 日 時 2018年12月24日（月・祝）  
9：30～10：20、13：00～16：30
2. 場 所 ウィンクあいち908号室
3. 出席者 後藤、今富、大川、加藤、上村、河田、  
古賀、小林、鈴木、塚原、平井、松永、  
圓岡 稲垣幹事（欠席者：三木）
4. 議 事

### 【確認事項】

- 1) 第3回理事会議事録（案）について
- 2) 本日の総会及び研究助成金研究発表の運営
- 3) 総会資料の修正

### 【審議事項】

- 1) 第28回学術集会の開催地  
九州ブロックでの開催を承認した。
- 2) 第26回学術集会（赤穂市）の事後処理の状況について  
台風による中止の影響で赤字決算が懸念されることから、理事会として抄録集残部の買い取りや販売促進等に協力することが承認された。
- 3) 第26回学術集会及び2018年度総会の総括  
各業務や役割分担ごとに振り返り、台風等の危機管理のルール作りに取り組むことが承認された。
- 4) 次期学術集会への申し送り事項  
上記の総括をふまえて、抄録集での避難誘導の説明の掲載、学術集会開催期間の保険加入などの申し送りが承認された。
- 5) 第27回学術集会（横浜市）のテーマについて  
学会長から提議され、「みらいにつなぐ養護教諭のアイデンティティ」が承認された。
- 6) 「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第三版＞」について  
年度内の発行にむけて、ワーキングメンバーや理事会での再度の意見確認を行うこととした。
- 7) 養護実践基準の検討について  
中間報告第2報に対する会員意見を参考にし、更なる検討を進めることとした。

### 【報告事項】

- 1) 2018年度委員会活動等の経過
- 2) 日本養護教諭関係団体連絡会の取り組み

#### <第28回学術集会(2020年)の開催について>

理事長 後藤ひとみ（愛知教育大学）

台風によって2018年度総会が延期され、ご報告が遅くなりましたが、下記の通りとなります。ご参加の程をよろしくお願い致します。

- ◆日 程 2020年10月10日（土）～11日（日）
- ◆開催地 熊本県玉名市
- ◆学会長 古賀由紀子（九州看護福祉大学）

## 事務局より

事務局長 圓岡和子（愛知教育大学附属高等学校）

転勤等の諸事情が重なり、学会誌第22巻第2号の発送が4月中旬になってしまいました。お届けが遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

●発送にヤマト運輸のDM便を利用していますので、移転先に転送されません。発送先を変更された場合は、速やかに変更届を提出してください。また、学会誌が届いていない場合は、ご連絡ください。

●年会費の納入を電信扱いでされる方は、氏名の他に会員番号も入力してください。所属先のみ記載では会計処理ができませんのでご注意ください。年会費を入金されたにもかかわらず請求書が届いた場合は、処理されず保留となっている可能性がありますので、お手数ですがお問い合わせください。

●周りの方で養護教諭教育（養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動）に興味のある方がいらっしゃいましたら、是非、本会へのご入会をお勧めください。

●「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第三版＞」（2019年3月31日）を発行しました。1冊500円で販売しています。こちらにも会員外の方にお勧めください。

●その他、何かお気づきの点がありましたら、下記学会事務局までEメールかFAXにてお知らせください。よろしく願い致します。

<<学会事務局>>

E-mail：JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp  
TEL & FAX：0566-26-2491

## 編集後記

去る5月には新元号「令和」という新しい時代の幕を開けました。

本誌冒頭に掲載した理事長からの事業報告には、「温故知新」をスローガンとする理事長就任時の挨拶が引用されています。今年度の第27回学術集会の開催地である横浜を舞台に機関紙『ハーモニー』はその歩を進め、次号は第80号を迎えます。

特別企画を新たにスタートする一方、これまでの機関紙から何を学ぶのか。「温故知新」を会員の皆様と共有できるよう、これからも機関紙ハーモニーをお届けしてまいります。  
(平井美幸)